

令和5年度実施卒業生調査について（報告）

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学卒業生の在学中の学習や諸経験が卒業後のキャリアや生活とどのような関係にあるのかを検証する。 ・ 本学での学修や教育が、DPに定められた資質・能力の修得に資するものであったか、身に付けた資質・能力が社会でどのように役立っているかを卒業生の評価により明らかにする。 ・ 大学での取り組みをステークホルダーに分かりやすく説明できるよう、調査結果を活かした情報公開に役立てる。 ・ その他教育活動等の改善に資する検討資料として活用する。
調査対象	<p>令和2年度 現代生活学部卒業生 375名</p> <p>※翌9月卒業生を含む</p> <p>※外国人留学生数含む</p>
回答実績	<p>有効回答数：263人</p> <p>有効回収率：18.9%</p>
調査期間	2023年8月9日～2023年8月31日
調査方法	官製はがきで依頼し、Web上のアンケートフォームにて回答
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生プロフィール 卒業学科、卒業年度、現在の勤務先など ・ 社会で求められる資質・能力について DPの検証、各資質・能力が大学卒業時にどの程度身につけていたか ・ 大学での学び、生活について 在学中の経験と満足度、大学での経験がどの程度役立っているか ・ その他 大学の満足度、本学推奨度、インタビュー調査の可否など
調査結果 (総括)	<p>「アカデミックスキル」や「対人基礎力」など修得度が高かった項目から、本学において必要な学びを得て職場で能力を発揮し、満足している卒業生が平均的に多いという事が確認できた。</p> <p>一方で、必要度が高いが在学中の修得度が低めの項目「ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力」、大学での学修項目である「外国語を使う能力」については、今後、施策が必要になると考えられる。</p> <p>友人だけでなく教職員も含む対人関係の構築、卒論、卒業研究や専門ゼミ、討論等の学修体験、専門性を深める学修など、大学生活での経験にはアカデミックスキルや社会人基礎力が鍛えられる場面が多々あることを学生、教職員共に改めて認識することを検討課題としたい。</p>